



はたららくネット



広報紙「はたららくネット」では、より多くの方々に障害のある方の就労について理解を深めていただけるように、積極的に障害者雇用に取り組んでいる事業者の取り組み事例を紹介しております。今号では、9月に多くの企業の人事担当者の方々との協力を得て開催した『「ふれあいワークフェア・障害者就職面接会」対策講座』について、ご紹介させていただきます。

「ふれあいワークフェア・障害者就職面接会」対策講座

「ふれあいワークフェア・障害者就職面接会」は、宮城労働局、ハローワークが主催する大規模な障害のある方向けの面接会です。例年9月頃に仙台国際センターなどを会場に数十社におよぶ企業が参加して行われます。はたらポート仙台ではハローワーク仙台との共催で、この面接会に向けて仙台市内の就労移行支援事業所とその利用者の方を対象とした対策講座を【講義編】と【実践編】の2回に分けて開催しております。今年度も8月22日【講義編】、9月11日【実践編】の両日に、多くの企業の人事担当者の方々に講師、面接官にお招きし開催しました。以下に、両日の講義の内容、模擬面接の様子、面接官の方々の講評などをご紹介します。

対策講座【講義編】

「ふれあいワークフェアの活用等について」

仙台公共職業安定所 職業相談部専門援助第二部門 統括職業指導官 小野寺 正道 氏

「ふれあいワークフェア・障害者就職面接会」は多数の企業と多くの障害のある方が面接のできる貴重な機会です。これまで面接会は、9月に「ふれあいワークフェア」、2月に「ふれあいウィーク」と年2回開催しております。求職者の方にとって1日に複数の企業の面接を受けられることのほか、企業の担当者の方にも多くの障害のある方の状況を見ていただける良い機会です。この面接会のあと企業見学や職場実習に進むこともできますので、お互いの顔つなぎの場ともなります。

また、支援者の方の同席もあることから、求職者の方のみならず企業の担当者の方にも安心感を持って面接していただける環境となっています。あくまで面接を受けるのは求職者の方ですが、緊張して上手く説明できない時など、支援者の方にご本人の障害特性や熱意、長所などを補足していただくことも可能です。

この面接会での面接で採用を内定する、あるいはこの面接を一次面接とみなして二次面接に進む場合は、面接会実施日での紹介状を発行することになります。職場実習は通常紹介状を受ける前に行われますが、この面接会は特殊なパターンであり、紹介状発行後の職場実習も可能です。職場実習は、求職者の方には職業を理解する、働くことを学ぶ、企業の方には障害者雇用の理解を深める良い機会です。

ハローワークでは、この面接会で一人でも多くの方が採用に結びつくよう願っています。求職者の方が積極的に面接を受けられるように、支援者の皆さんのサポートをお願いします。



小野寺統括職業指導官

「企業視点での採用ポイントと支援者に期待する役割」

東洋製罐株式会社 仙台工場 北日本生産管理課長 菊地 辰弥 氏

障害者雇用の取り組み

私自身、他の職場で障害のある方を雇用したことがあるのですが、仙台工場では初めての障害者雇用の取り組みでした。まずは、総務の課長として課のメンバーに理解を求めることから始めました。「障害者とはどういう人たちなのか」、「その方が職場にいるとどんな楽しいことがあるだろうか」ということをミーティングで話し合うことで、障害者雇用を進めていくことに理解を得ることができました。

それから職場見学会を実施し、来ていただいた方に2～3日間の職場体験をお誘いしました。初めての障害者雇用ということもあり、総務での受け入れを想定した職場体験としました。事務の幅広い仕事のうちパソコンでの仕事を体験してもらいながら、職員と接する中で事務の仕事では大切な「快話(会話)」を体験してもらいました。2～3日の体験の後、次へ進むことを希望された方には、週5日20時間の仕事を体験していただき、ご自身の体力などを確認してもらいました。

このような体験の中で職場を知っていただき、最終的な採用の判断の際には親御さんも会社にお招きし、職場やそこで働くメンバーを見ていただくことで、不安を取り除いた上で希望を確認し採用させていただきました。

応募される方に期待すること

私の部署では、障害のあるなしに関わらず、人にはいろいろな特性・個性があるということと、一人ひとりがそのカラーを発揮して、チームとしてどう取り組んでいくかを考えていただいています。そんな中でいろいろなことを経験していただき、少しでもできることを増やして行って、職場にとって「価値ある人」に成長してほしいと考えています。自分自身で努力する姿勢、学ぼうとする意欲が感じられたらうれしいです。面接においても、「将来どんなことを頑張っていきたいか」、「将来の成長した自分を想像できるか」ということを聞かせていただいております。

また、こころ、気持ちを考えるということを目指し、教育の中心としています。挨拶は自分からすること、人には「笑顔」で接することを勧めています。笑顔には不思議なパワーがあり、笑顔から人と人とのつながり、チームが作られていくと思っています。そして、「ありがとう」と言えること、「ありがとう」は魔法の言葉だと伝えています。

支援員に求めること

企業が障害者雇用に取り組む際には、まずどこから始めたらよいか、企業のことをどのように伝えれば良いかについて悩みます。そして一番悩むのは、どのような仕事を願えば良いのかということです。私たちは、それに加えて採用後のキャリアアップをどのようにしていくかということも考えています。

これまでの経験では、体験の中で与えられた作業をこなすのが難しい方もいらっしゃいました。同僚のパートさんから、「いつもフォローが必要」などの声が出ることもあり、また、遅刻も頻繁な方もおりました。やはり、一定程度作業ができることは必要ですし、社会人として守るべき部分は最低限出来ていることが必要だと思います。

就労定着に向けての課題として、やはり、仕事が時間内に終わらない、コミュニケーションが難しい、感情のコントロールがうまくいかないなどがあります。特に、コミュニケーションのうち「報連相」が適切に行えないと業務上のトラブルや事故を招きかねません。

私たちはいつも褒めて育てようと考えています。皆さんも、すごいね、やるね、素晴らしいなど、沢山褒めることで利用者の方のできることを増やしてあげてください。



東洋製罐株式会社 菊地課長



対策講座【実践編】

実践編では、冒頭、ハローワーク仙台の小野寺統括職業指導官から「ふれあいワークフェア」の活用方法についてご説明をいただきました。限られた時間の中で、自身の障害理解、健康管理法や働く意欲を伝えられるようにすること、仕事の内容や働く条件などを企業からきちんと確認すること、企業の仕事内容に「得意なこと」や「関連した経験」があるときには、積極的にアピールすることなどのお話がありました。

模擬面接のようす

模擬面接は午前の部、午後の部に分かれ、合わせて7社の人事担当者の方の協力で行われました。「ふれあいワークフェア」の面接を想定して、簡易版の履歴書により、それぞれの企業ブースで1人20分程度の面接を受けました。

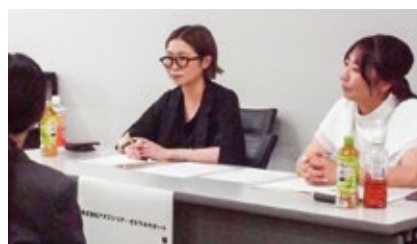


視点 1

いくつかの企業からは、「どのようなことで頑張りたいか」、「目標としていることはあるか」といった入社後の意気込みについて質問がありました。一般求人と同様に何をしたいかというビジョンを持った人を求めているようです。働きたい意欲を伝えるためにも事前に整理しておいた方が良いでしょう。

模擬面接なので本番ではないのですが、相手が支援者ではなく実際の企業の人事担当者の方のため、面接を受ける方々はみなさん緊張され、こわばった表情でのやり取りが多く見受けられました。求職者の方にとっては、この緊張を経験することだけでも十分意味はあったように感じました。面接に関しては、それぞれの企業において自社で採用することを想定した質問をしていただきましたが、志望動機についてはご本人が希望している職種を前提として面接をしていただきました。

そのほか、職歴、長所短所、障害特性、不調時の対処法や会社に依頼する配慮事項など、本番の面接を想定した質問を受け、求職者の方は支援員の同席を受けながら必死で応答されていました。多くの方が指摘を受けていたのは、「声の大きさ」、「話し方」、「テンポ」などです。話す内容を周到に準備しても、それを伝える話し方ができていないとずいぶん損をするという印象を受けました。



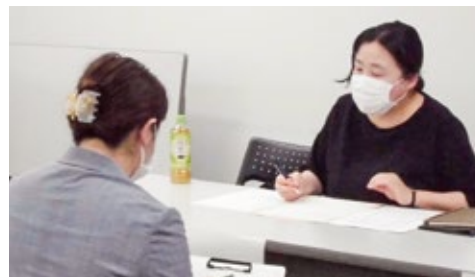
視点 2

具体的なエピソードは説得力があるようです。志望動機や障害特性、得意なことなどを説明するときにも、「こういうことをしてきたので御社のこの部分に活かせると思います」、「学生時代の〇〇が今の▽▽に生きています」などの話は、聴く人に「なるほどな」と思わせる力があります。



視点 3

履歴書は重要なアイテムです。対策講座は簡易版でしたが、丁寧に書かれているものは面接官の目を引くようです。ご本人のアピールポイントをしっかり見てもらえるよう工夫して作成しましょう。



企業からの講評

《率直な感想》

多くの企業の方から、模擬面接に参加された方々が「面接に臨むための準備、練習をきちんとできてきたことに好印象を受けた」、「質問に対して真剣に誠実に応えようとする姿勢が見られた」というお褒めの言葉をいただきました。

また、面接官の方々にとっても、障害のある方との面接の中で、「障害理解が進んだ」、「質問の仕方を工夫してみた」、「勉強になる貴重な経験だった」とのお言葉をいただきました。



《採用する側の思い》

企業の想いとして、「ミッション(使命感・責任感)、パッション(情熱)、リレーション(組織の一員として周囲と繋がり、助けを求められるように)の3つの言葉を大切に」、「企業では障害のある方がスムーズに仕事ができるよう一生懸命マニュアルや手順書を作り準備しているので是非大事に活用して欲しい」といったお話がありました。



《貴重なアドバイス》

【面接での緊張について】

- 面接官も若干ですが緊張しています。皆さんが緊張して上手く話せない部分があることも面接官は理解しているので、安心して素直に自分のことを伝えてください。
- これだけは絶対に伝えようと思うことは、「キーワード」として頭の中に入れておいてはどうでしょうか。

【自己PRについて】

- 1分間、3分間という時間を決めた自己紹介の練習は、面接練習のファーストステップとして有効です。
- まずは自分を知って、それを企業に伝えて、自分が何ができるのかをしっかりとPRして欲しいと思います。履歴書もPRのためのツールであることを忘れずに記載すべきことはきちんと記載することが大切です。
- 面接においては第一印象、特に身だしなみや挨拶が大切であるということもお伝えしたいと思います。

【マッチングについて】

- 面接は、仕事と人のマッチングを図るためのものです。良いことも悪いことも含めて自分のことをきちんと企業に伝えて欲しいと思います。

模擬面接にご協力いただきました企業の皆様、ありがとうございました。

学校法人仙台育英学園 様 / テスコ株式会社 様
シップヘルスケアファーマシー東日本株式会社 様 / 東洋製罐株式会社仙台工場 様
株式会社アダストリア・ゼネラルサポート 様
独立行政法人国立高等専門学校機構仙台高等専門学校 様 / 東北ポール株式会社 様
(以上、順不同)

発行：仙台市障害者就労支援センター「はたらポート仙台」

(指定管理者：社会福祉法人仙台市障害者福祉協会)

住所：仙台市泉区泉中央2丁目1-1 泉区役所東庁舎5階

電話：022-772-5517 FAX：022-772-5519

Mail：hataraport@sendai-wsc.jp HP：https://www.sendai-wsc.jp

